

わたしたちの意見を市政に 牛久市中学生模擬議会

8月21日、市議会議場で「平成26年度牛久市中学生模擬議会」を開催しました。市内各中学校の2・3年生10人が参加し、市政に対し新鮮味あふれるさまざまな質問が出され、市長および教育長が定例議会同様、熱心に答弁をしました。

牛久市の将来を担う模擬議員の皆さんの質問、それに対する市長及び教育長からの答弁、そして各模擬議員の感想の概要を紹介します。

(質問・答弁・感想は、それぞれ主な内容を抜粋しています)



子育て支援について

児童クラブではどのようなことをしていますか？



齋藤 大我さん(牛久第一中学校)

答弁：平日は、宿題をしてからおやつを食べて、外遊びまたは体育館などで遊び、その後、室内遊びをしながら保護者のお迎えを待ちます。土曜日は、ゲームやDVD鑑賞、サッカーなどを行っています。また、読書や宿題などの時間も設けて、学習習慣が身につくようにしています。

齋藤さん：遊ぶだけでなく読書や宿題などもして、学習習慣を身につけられるので良いと思いました。利用する人数が約4倍に増え、校舎の有効活用を検討するなど工夫も考えられていることが分かりました。

ごみ問題について

ごみ減量のためにどのような取り組みや対策をしていますか？



東郷 一真さん(牛久第一中学校)

答弁：分別の徹底、燃えるごみの約40%を占める生ごみ対策、生ごみ分別・堆肥化事業、市内で発生する木くずの資源化および廃食用油の燃料化、使用済小型家電の回収などを実施しています。

東郷さん：可燃ごみに多くの資源物が紛れ込んでいるのには驚きました。ごみを正しく分別することがとても大切だと感じました。私にもできることを見つけ、一市民として少しでもごみの削減に協力していきたいです。

公共交通機関の整備について

かっぱ号のルートは今後距離が延びたり、数が増えたりする計画はありますか？



吉田 峻さん(牛久第二中学校)

答弁：奥野地区には、平成23年4月から開始したNPO法人サンライズが行う過疎地有償運送事業があります。今ある公共交通機関を維持して、より地域に合った交通手段を生み出していくため、「牛久市地域公共交通会議」で引き続き検討を進めていきます。

吉田さん：学校などで、サンライズの事業のことを友だちに話していこうと思います。将来的に奥野地区ルートのかっぱ号が再運行され、多くの人が利用するようになっていくことを希望しています。

中学校の合併などについて

合併の基準や牛久二中の合併の予定があれば教えてください。



畠山 美結さん(牛久第二中学校)

答弁：国や牛久市で小中学校の合併や分離の基準は設けていません。さらに、牛久二中は伝統校であり地域の中心的な建物ですので、学区の変更や別の中学校と統合させるようなことは考えていません。

畠山さん：私たちの牛久二中を地域にとっての大切なものと考えていただいていることに感謝します。若い人たちが、もう一度奥野地区に戻って来られるようにするためには、私たち中学生が率先して奥野地区を明るくしていくことが大切だと思います。

高齢化対策について

介護を必要とする認知症高齢者にどのような対策をしていますか？

加藤 直人さん(牛久第三中学校)



答弁：小学校区毎に「地区社協」を設立するとともに、グループホームや特別養護老人ホーム等、地域のバランスを考慮しながら、介護施設の整備も進めています。市は小学校区を基準とした小地域での行政運営に力を注ぎ、超高齢化に対応しようとしています。

加藤さん：市では、4人に1人が高齢者となっていて、介護の認定を受けている高齢者のうち、58%が認知症の症状がみられると聞き、とても驚きました。

税金について

小中学校の教育環境の充実等の詳細を教えてください。

正木 茜さん(牛久第三中学校)



答弁：市では「子育て・教育日本一」を掲げ、学校建設や校舎の耐震補強、老朽化した施設の大規模改修、各教室へのエアコン設置や学校施設の維持のために、平成16年度以降の10年間で約111億円の予算を使い、教育環境の充実に取り組んできました。

正木さん：市役所では財政負担を減らすために、努力していることが伝わってきました。これからは、私も税金の使い道に興味や関心をもち、市が更に良くなるように貢献したいと思います。

バイオディーゼルについて

バイオディーゼルの今後の展開や特性を教えてください。

大塚 莉子さん(下根中学校)



答弁：市は、環境にやさしく災害に強い循環型社会「スローシティ」を目指すこととしています。今後より多くの車にBDFが使えるように、現在建築中の新たな施設には、BDFを高品質にする装置を取り付けます。将来的には、市民の皆さんにも使ってもらえるよう整備していきたいと思います。

大塚さん：将来私たち市民への供給などができるようになると考えると、とても楽しみです。そして、この取り組みが全国的に広がっていくともっと住みやすい国や地域になっていくと思いました。

町おこしについて

市の今後の町づくりの計画があれば教えてください。

小林 紗耶香さん(下根中学校)



答弁：牛久駅東口駅前では、歩行者が安全に通行でき、バス、車などがスムーズに通行できるように整備しています。また、友好都市のグレーヴェ・イン・キアンティ市があるイタリア産レンガを使い、より魅力的な駅前にするのを計画しています。牛久駅西側地域では、少子超高齢社会に向けた対策をはじめとする多くの課題解決に向けて、協議会を立ち上げ検討しています。

小林さん：町おこしのための計画がいくつもあることが分かり、これからどのような牛久へと変わっていくのが楽しみです。

防災について

大災害に備え、各行政区・小中学校に対してどのような呼び掛けや要請をしていますか？

柘植 一輝さん(牛久南中学校)



答弁：市民の皆さんには「自分たちの地域は、自分たちで守る」を基本に、市民一人ひとりが自分の身を守る自助の考え方に基づき、「平時から防災に努めること」と「各家庭においては3日分以上、可能であれば隣近所の分を含め、7日分の飲料水や食料の備蓄」をお願いしています。

柘植さん：市が様々な所と連携して大震災に備えているということはとてもよい活動だと思いました。私も防災について日頃から心掛けていきたいです。

市の今後の農業について

TPPで関税が撤廃されたときに備えてどのような対策を考えていますか？

下川 諒也さん(牛久南中学校)



答弁：市内の農家の方には、外国産の農産物に負けないような安全・安心で美味しい農産物の生産に取り組んでいただき、地産地消を今以上に進めていきたいと考え、市では平成22年から「スローシティ・スローフード」のまちづくりに取り組んでいます。

下川さん：関税撤廃時の問題は中学生と深く関係していて、今後の日本、そして牛久の農業は私たちの世代次第なのではないかと感じました。